

チベット仏教におけるチオルテン建築の研究

— 菩提チオルテンを事例として —

当

智

An Outline of Tibetan Buddhist Pagodas as influenced by Bonism

DANG Zhi

Abstract

The first pagodas were erected in India. In Tibet even before the introduction of Buddhism, stone and clay pagodas were evident. Once Buddhism has spread to Tibet two prime religions have united. These were Indian Buddhism and Tibetan Bonism. Bonism is one of the primitive religions in Tibet. As a result of this merger Tibetan style pagoda(chorten) has been erected. It can be inferred that Tibetan pagoda is the combination of elements from both Buddhism and Bonism. It is highly symbolic of Tibetan culture, and is characterized by the unique architectural form of Tibetan Buddhism features. In my opinion the religion and the architecture have a mysterious bearing on research. In other words we need to consider the Tibetan Pagoda together with each element and symbol of its structure. The cultural impact of Tibetan Pagoda will be presented in the final conclusion of this essay.

Keywords: チベット仏教；菩提チオルテン；建築；象徴

はじめに

吐蕃時代に仏教はチベットに伝わった。この時期のチベットは、ソンツェン・ガンポ (srong btsan sgam po)¹⁾ 王により統一され、さらにチベットの文字も作り出した。また、同時代には、チベットと唐王朝、ネパールとの間で政治・経済・宗教などの文化交渉が行われた。その結果、チベットは仏教を受け入れる基礎ができたのである。チベットのチオルテンには特別な意味が込められており、神、仏等を祀る建物である。チベットにおいて、仏像・仏典・仏塔は、それぞれ仏の体・言葉・心を表すとされている。また、各家庭では小型のチオルテンを仏壇に祀り毎日祈りをささげる文化がある。このようにチオルテンはチベット仏教の中で高い地位を与えられている。

仏塔が最初に建立されたのはインドであるが、チベットでも仏教入伝前からボン教の石塔、土塔などが建立されていた。仏教がチベットへ伝わった後、インドの塔と仏教の思想、チベットの原始宗教の一つであるボン教の塔などが融合した。その結果として、チベット式のチオルテンが建立されるようになる。つまり、チオルテンは仏教とボン教が結びついた結果生まれたものであると考えられる。

近年、日本では田中氏や森氏に代表されるように、チベット文化圏におけるチベット密教や図像学の研究者が増えつつある²⁾。しかし、研究があまり進展しない理由として、川田氏は「外国人による現地調査が進展しない。理由は地理的な要因と現地の政治情勢である。³⁾」としている。つまり、ある程度の研究成果は増えているとはいえ、チベット民間文化についての現地調査による研究成果はまだ不十分である。加えて、チベット文化の今後について、次のような提言がなされている。

民間文化は、社会調査と歴史研究を行う上で非常に高い価値があり、それらが自然の傷害と衰亡、破壊されて行かないように、整理、保護、収集して伝承することが非常に重要である。

dmangs khrod rigs gnas des spyi tshogs rtog dpyod dang lo rgyus zhib 'jug la rin thang nges can ldan pas, rang byung gi gnod pa dang, dus gyi char rlung, mis bzos lag

1) ソンツェン・ガンポ (581年-649年もしくは650年) は、古代チベットの王 (在位593年-638年、643年-649年もしくは650年)。チベット初の統一王国 (吐蕃) を樹立し、チベットに初めて仏教を導入した人物として知られる。本名はチソンツェンであり、ソンツェン・ガンポは後世の人間による尊称である。漢文史料では、松贊岡保、棄宗弄讚と表記される。ロラン・デエ『チベット史』今枝由郎訳、春秋社、2005年、83-92頁。

2) ツェワン・ドルジェ (tshe dbang rdo rje)、ドルジェ・ジ (rdo rje skyid) 等編『rma lho'i dmangs khrod rig gnas dpe tshogs gser gyi thang ma』甘肅民族出版社、2008年、等。

3) 川田進『東チベットの宗教空間』北海道大学出版会、2015年、19頁。

nyes su mi gtong ba'I ched du bdag dam gang legs byas te mdzhod du bsdu rgyu ni
bya ba gal chen zhig yin.⁴⁾

つまり、チベットの文化であるチベット仏教を研究する上で、民間の文化が非常に重要であるということが指摘されている。しかし、その必要性に反比例するように民間の文化は消滅しつつある。そこで、現存するチベット文化を後世に伝えてゆくためにも、文化の一つであるチオルテンの建築に対する調査研究が急務であると思われる。⁵⁾

本稿で、「菩提チオルテン」を主に取り上げるのは、グライラマ五世 (ngg dbang blo bzang rgya mtsho, 1617-1682年) が去世後に建造された霊塔 (sku gdung mchod rten) は「菩提チオルテン」の形をしており、それ以前のものとは形が異なっている点が見られるからである。さらに、現代でもチオルテンについて解説がなされる時、「菩提チオルテン」をもとに説明されることが多いからである。

一 菩提チオルテンの名称

「菩提チオルテン」は八大チオルテンの中でも基本的な形をしており、チベット地域でも数多く建立されている。八大チオルテンに関する研究はこれまでも多くなされている。例えばジュゼッペ・トゥッチ (Giuseppe Tucci) 氏の『梵天佛地』⁶⁾ や『佛説八大霊塔名号経』⁷⁾、『八大霊塔梵讃』⁸⁾ 見られるチオルテンに関する記述、山本幸子「チベットの技法書に見られる法塔（チオルテン）の類別」⁹⁾『西藏地区的寺院与佛塔』¹⁰⁾ コンチョク・テンズンとティンレー・ギェルツェン (dkon mchog bstan 'dzin, 'phrin las rgayl mtshan) 『bod lugs mchod rten』¹¹⁾ 等である。彼らは、古代インド仏教における八つの仏塔の起源と流行などに着目している。しかし、チベットの八大チオルテンについての詳細な研究は少ないため、ここでは八大チオルテンの異同について検討し、菩提チオルテンの詳細を述べたい。

まず、八大霊塔の起源とされるのは、釈迦が亡くなった後、火葬された遺体の遺灰を八つに分

4) ツェワン・ドルジェ (tshe dbang rdo rje)、ドルジェ・ジ (rdo rje skyid) 等編『rma lho'i dmangs khrod rig gnas dpe tshogs gser gyi thang ma』甘肅民族出版社、2008年、2-3頁。

5) 本論文に引用するチベット語の文献は、筆者が翻訳した。

6) ジュゼッペ・トゥッチ Giuseppe Tucci『梵天佛地』第一巻、魏正中、薩爾吉主編、上海古籍出版社。

7) 『佛説八大霊塔名号経』、『大正新脩大藏経』大蔵出版株式会社、1925年2月) 第32冊、経号1685。

8) 『八大霊塔梵讃』、『大正新脩大藏経』大蔵出版株式会社、1925年2月15日発行、第32冊、経号1684。

9) 山本幸子「チベットの技法書に見られる法塔（チオルテン）の類別」『日本西藏学会会報』、1999年3月 69頁-81頁。

10) 佛教小百科、全佛編輯部編『西藏地区寺院与佛塔』中国社会科学出版社、2003年1月。

11) コンチョク・テンズンとティンレー・ギェルツェン (dkon mchog bstan 'dzin, 'phrin las rgayl mtshan) 『bod lugs mchod rten』、民族出版社、2007年5月。

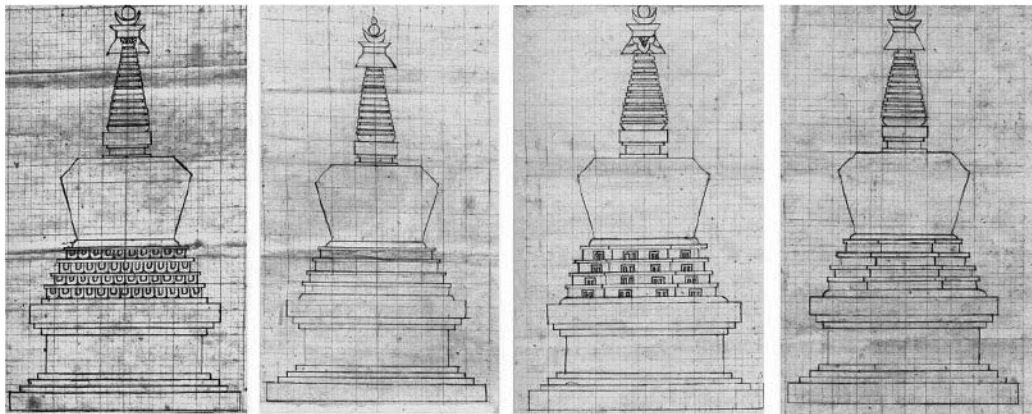
け、それを納めるために建立された塔であるとされる。八大霊塔については表1の通りである。

表1 古代インド仏教における八大霊塔の建造者と地点¹²⁾

仏塔名称	地点	建造者
蓮集の仏塔	底噶迦西	天主
菩提の仏塔	摩揭陀	阿闍世王
多種法門の仏塔	舍衛城	波斯匿王
神変の仏塔	拘尸那揭羅	末羅居民
天降の仏塔	迦毗羅衛	浄飯王
和合の仏塔	測給	詢集達拉旺
勝利の仏塔	舍衛城	波斯匿王
涅槃の仏塔	拘尸那揭羅	末羅居民

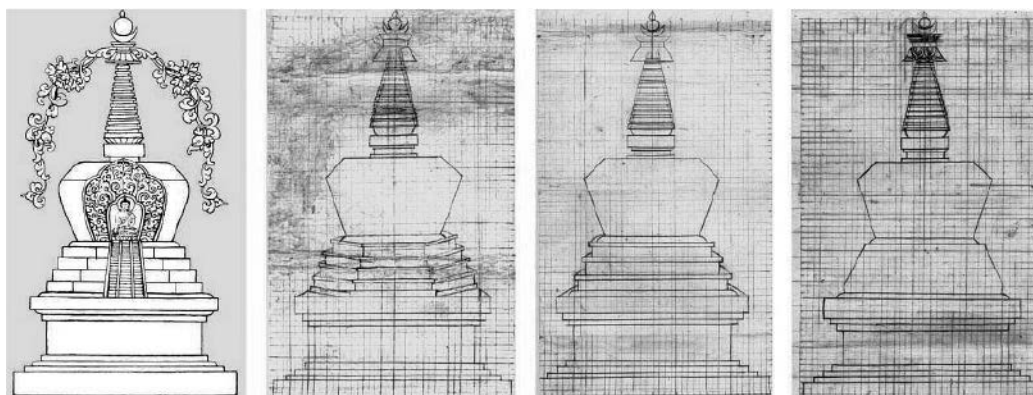
これら八つの聖地に建立された八大霊塔は、信仰ある者が善行を積むための拠り所となっている。当時の八大霊塔の形式がいかなる形であるかは不明である。

現代チベット仏教における八大チオルテンの形は、コンチョク・テンズンとティンレー・ギェルツェン (dkon mchog bstan 'dzin, 'phrin las rgayl mtshan) 『bod lugs mchod rten』において、以下のように図にされる。



1. 蓮華のチオルテン 2. 菩提のチオルテン 3. 多種法門のチオルテン 4. 神変のチオルテン

12) 『大正新脩大藏經』と『梵天佛地』に基づき、筆者が作成。



5. 神降のチオルテン

6. 和合のチオルテン

7. 勝利のチオルテン

8. 涅槃のチオルテン

図1 八大チオルテン¹³⁾

八大チオルテンの異なる点は個々の塔瓶下にある階段の形と段数により分かれる。それぞれの特徴を分類すると以下の表になる。

表2 八大チオルテンの特徴¹⁴⁾

チオルテンの名称	段階	形式
pad spungs mchod rten 蓮華の集積チオルテン	4段、或いは8段	円形で、蓮弁の模様
byang chub mchod rten 菩提チオルテン	4段	正方形
bkra shis sgo mangs mchod rten 多種法門のチオルテン	4段	正方形、階段に門がある。 門の数は108、56、16
cho 'phrul mchod rten 神変のチオルテン	4段	正方形の階段の各方向に突起がある
lha babs mchod rten 天降のチオルテン	4段	正方形の階段の中央にはしごがある
dbyen bzlum mchod rten 和合のチオルテン	4段	正八角形
rnam rgyal mchod rten 勝利のチオルテン	3段	円形
myang 'das mchod rten 涅槃のチオルテン	なし	全体が鐘型

13) 前掲、コンチョク・テンズンとティンレー・ギェルツェン『bod lugs mchod rten』、2007年5月、73-80頁。

14) 前掲『bod lugs mchod rten』と「チベットの技法書に見られる法塔（チオルテン）の類別」に基づき、筆者が修正した上で作成。チベット語の八大チオルテンの名称においては、『bod lugs mchod rten』に基づいた。

次に菩提チョルテンの名称であるが、チベット語では「シャンチブ・チョルテン (byang chub mchod rten)」と言い、中国語では「菩提塔」、或いは「菩提佛塔」、日本語では中国語と同様に「菩提塔」という名称が使用されることが多い。また、「菩提宝塔」も用いられる。

これらに関して、石濱氏は「菩提塔 (byang chen) は仏が完全に覺りを開かれた時、金剛座 (rdo rje gdan) に」¹⁵⁾と述べている。山本幸子氏の「チベット技法書に見られる法塔 (チョルテン) の類別」では、正等菩提を記念して作られた「菩提の法塔」としている¹⁶⁾。また、張馭寰氏の『中国塔』では以下のようにある。

喇嘛塔是藏傳佛教所崇奉而建造的塔，是喇嘛教建築中的壹種類型，喇嘛塔既然是喇嘛教的象征，勢必反映出喇嘛教的特征與發展。¹⁷⁾

彼はチベット仏教における全てのチョルテンを「ラマ塔」と記述している。また、ソナムツェラン bsod nams tshe ring 氏の『中国佛塔』によると、以下のようにある。

菩提塔，藏語香曲曲丹，是為記念佛祖釈迦牟尼獲得大悟，得到成佛而仿照摩揭陀尼連河畔瑪格達佛塔建造的¹⁸⁾

これらによれば、菩提チョルテンの名称は「菩提塔」、「チャンチブ・チョルテン byang chub mchod rten」、「菩提法塔」、「喇嘛塔」、「香曲曲丹」など様々存在していることが分かるが、本稿では菩提チョルテンで統一する。

二 菩提チョルテンの建築の起源

前述したように七世紀前半、ソンツェン・ガンポ王 srong btsan sgam po (581年-649年) の時、チベットの国力は急速に拡充し、最盛期を迎えていた唐朝をも脅かす存在となった。そのようなチベットと友好関係を結ぶため、時のネパールの支配者であったアンシュ・ヴァルマーは熱心な仏教信者であった娘ブリクティーに釈迦の仏像、多羅菩薩像、彌勒菩薩像および迦葉の像を持参させソンツェン・ガンポに嫁がせた。さらに唐からも文成公主が嫁いだ。彼女たちは、それぞれ本国から仏像を持参してきたため、それらを安置するため、ラサの都にラモチェ

15) 石濱裕美子『清朝とチベット仏教—菩薩王となった乾隆帝』早稲田大学出版部、2011年1月、20頁。

16) 前掲、山本幸子「チベットの技法書に見られる法塔 (チョルテン) の類別」、69頁。

17) 張馭寰『中国塔』山西人民出版社、2000年、110頁。

18) ソナムツェラン『中国佛塔』青海人民出版社、2002年、107頁。

寺¹⁹⁾とトゥルナン寺²⁰⁾（チョカン寺）が建立されたという伝説がある。ソンツェン・ガンポ王は、仏教の十善戒に基づく十六箇条等の勅令を定めた。その当時のチオルテン建立に関しては、ソナム・ツェランの『中国佛塔』において以下の通り述べている。

松贊幹布時期，佛教正是傳入西藏，隨之佛教建築應運而生，佛塔之中象征佛陀真身的佛教建築也終於在西藏本土誕生。松贊幹布時期創建的西藏昌珠寺五頂塔，是藏族人在西藏本土創建的第壹座結構較完整佛塔，特征較明顯的藏式佛塔。其次還有拉薩紅山頂白塔，奧同湖塔，大昭寺八塔等均是西藏早期建造的佛塔，吐蕃早期佛塔的壹些遺跡今尚存。²¹⁾

また、昌珠寺（タドゥゴンパ khra 'brug dgon pa）については、『西藏地区的寺院与佛塔』に以下のように述べられる。

昌珠寺（藏名 khra 'brug dgon pa）別名叫卡木牛，此寺位於拉薩東南壹百多公裏的乃東縣雅隆河東岸的公路邊，為古菇地方中心，與贊塘寺隔河相望，是松贊幹布時代的最早建築之壹，相傳為松贊幹布為了鎮壓羅刹女所建的十二座寺院之壹，始建於七世紀四十年代前後，由松贊幹布主持建造，以後又經帕莫竹巴王朝的大司徒強堅村的改建，擴建，接著又有歷代的修繕。現在屬於格魯派。²²⁾

また、ラドック氏によれば次のように述べられる。

公元七世紀，藏王松贊幹布統壹了青藏高原，建立了吐蕃王朝，松贊幹布時期，大力弘揚佛教，佛教也從印度、中原唐朝等地傳入吐蕃。與此同時也修建了許許多多的佛塔，比如：在拉薩紅山修建的白塔，在最早的寺院之壹的昌珠寺修建前，為征服五頭兇龍而建造的五頂塔。在奶湖西南方向修建的蓋如塔、小昭寺裏修建的八種塔等²³⁾。

19) ラモチェ寺はチベット自治区のラサにあり、チベットで最初に建立された寺院であり、中国語では小昭寺と呼ばれる。646年頃に吐蕃のグンソングンツェン王の寡婦・文成公主によって建立された。ドンカル・ロザンチンリ（dung dkar blo bzang 'phrin las）『dung dkar tshig mdzod chen mo』中国蔵学出版社、2002年、1907頁。

20) トゥルナン寺とはチベットを統一した吐蕃第33代のソンツェン・ガンポ王に中国より嫁いできた文成公主により、7世紀に建立された。2000年に世界遺産、ラサのポタラ宮の歴史的遺跡群に追加登録されている。西見由章（2018年2月18日）、「ラサの世界文化遺産寺院「ジョカン寺」で火災」産経新聞 2018年11月2日閲覧。

21) ソナム・ツェラン『中国佛塔』青海人民出版社、2002年、81頁。

22) 佛教小百科、全佛編輯部編、『西藏地区的寺院与佛塔』中国社会科学出版社、2003年、154頁。

23) ラドック「藏伝佛塔の起源及其象徴」『四川民族学院学报』、第20巻、第3期、2002年、2頁。

以上のことから、ソンツェン・ガンポ王時代に建立されたタドクゴン（昌珠寺）に五頂塔（チオルテン）が建てられ、その後、ラサマルポリ（赤山）に白チオルテンが建立されたことが分かる。一般にはこれらが最初のチオルテンであると考えられているが、菩提チオルテンではないと思われる。これらチオルテンは「五頭兕龍」を降伏するために建立された五頂チオルテンである。つまり、五頂チオルテンの形式から考えても、菩提チオルテンである可能性は低い。

八世紀のチベット国王ティソン・デツェン（khri srong lde brtsan）国王の時代（742年-797年）のチオルテンに関する記載は根秋登子氏が以下のように解説している。

公元8世紀中葉，赤松德贊時期，從印度迎接寂護大師和蓮花生大師來藏區弘法，在赤松德贊的支持下，在西藏山南地區興建了西藏佛教史上的第壹座佛、法、僧三寶俱全的寺院——桑耶寺，並在桑耶寺四角分別建造紅、綠、黑、白四座佛舍利塔。同時，在寂護和蓮花生大師及其弟子們的主持下，還修建了松嘎爾五石塔、乃寧曲德佛塔等壹大批風格與印度佛塔相似的早期藏傳佛塔。此後，隨著藏傳佛教的廣泛傳播和發展，這種印度式的佛塔建築得到了繼承和發展，形成了具有藏傳佛教文化特點的建築物。²⁴⁾

とある。ティソン・デツェン王の指導下でサムエ寺²⁵⁾とジョカン寺で赤、緑、黒、白の四つの仏舎利塔（ring bsrel mchod rten）が建立されたことが分かる。また、コンチョク・テンツェン（dkon mchog bstan 'dzin）氏は「論藏式佛塔建筑」において次のように述べている。

赤松德贊在位時，迎請蓮花生大師於桑耶之初修造了五尊蘇喀微妙石塔，桑耶永古天成廟的四方修造了聲聞式造型的白色大菩提塔，菩薩式造型的具足法輪寶蓮裝飾塔，正覺佛式造型的黑色具足如來舍利裝飾塔，神降如來式造型的藍色具足十六門裝飾塔和放光塔，外圍城牆上修造了每座內藏壹顆佛祖舍利的108尊塔。²⁶⁾

ティソン・デツェン（khri srong lde brtsan）王は、インドより密教の修行者パドマサンバヴァ（pad ma 'byung gnas）を招聘し、サムエ寺の四方に白い大菩提チオルテンを建立させたとされる。

24) コンチョク・テンツェン（dkon mchog bstan 'dzin）「論藏式佛塔建筑」、『西藏研究』2004年第2期、92頁。

25) サムエ寺は現在の中国チベット自治区山南市のダナン県に位置する。この寺は、8世紀中、ティソン・デツェン王のもとで、インドのオータンプリー僧院にならって建てられたといわれる。仏典に説かれる世界観をモデルにした、いわば立体曼荼羅となっている。承德外八廟の普寧寺はこの寺をモデルにしている。詳しくは、前掲 ドンカル・ロザンチンリ（dung dkar blo bzang 'phrin las）『dung dkar tshig mdzod chen mo』2142-2144頁。

26) 前掲 コンチョク・テンツェン（dkon mchog bstan 'dzin）「論藏式佛塔建筑」2004年第2期、93頁。

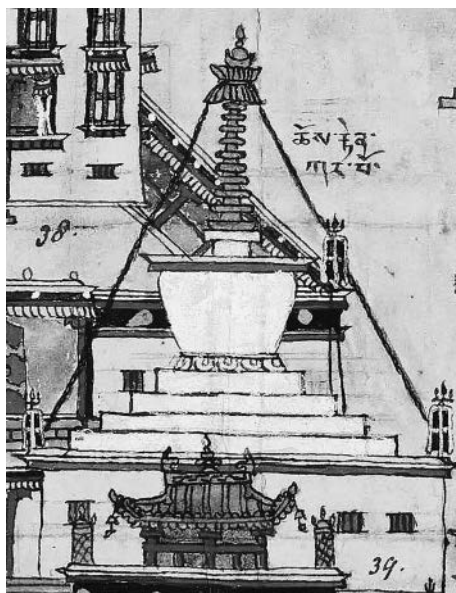


図2 サムエ寺の白い菩提チオルテン²⁷⁾

チベット仏教における最初の菩提チオルテンは、八世紀に建立されたサムイ寺の白チオルテンであると考えられる。ただ、その時代に建造された白い菩提チオルテンと図2 菩提チオルテンの形式が同様であるかという点についても今後、検討する必要がある。

三 菩提チオルテンの建造の特徴

菩提チオルテンは一般的には釈尊が完全に悟りを開いたことを記念するために建立されたと考えられている。また、チベットでは釈尊の悟りを記念することだけではなく、消災、降魔などのために建立されることも多い。

菩提チオルテンの形式は、三層で建造されていると考えられている。それに関して、ジャツォ (rgya mtsho) 編『bod lugs mchod rten la nye bskoe』において次のようにある。

印度的窣堵坡是由臺基，覆針，寶匣，相輪四部分組成的實心建築，中國佛塔壹般由地宮，塔基，塔身，塔頂，塔剎組成。藏式佛塔壹般分為塔座，塔瓶，和塔剎三部分。

rgya gar gyi mchod rten ni rmang rten dang lhung bzed sbub pa, rin po che'i za ma tog, chos 'khor bcas grub cha bzhis snying bo byas te bskrun ba zhig dang, rgya nag

27) ゴンボジャ (mgon pao rgyal) 氏より提供。図2はサムエ寺の菩提チオルテンであるが、時代はまだ明らかになっていない。

lugs ni spyir btang du 'og khang dang mchod rten gyi gzugs phung, mchod rten gyi rtse, tog bcas kyis grub pa zhig yin, bod lugs ni spyir btang du khri stegs dang bum pa, chos 'khor bcas gsum gyis grub pa zhig yin²⁸⁾

山本幸子氏の「チベットの技法書に見られる法塔（チオルテン）の類別」によると、チオルテンの各部の名称については、以下の通り述べている。

菩提法塔全体は、上から、果位の法塔 ('bras bu'i mchod rten)、因位の法塔 (rgyu'i mchod rten)、獅子宝座 (seng khri) の三つの部分に分けられる。²⁹⁾

山本氏は「ge ga la mal983」³⁰⁾において、菩提チオルテン全体を三つの部分に分け、上部を果位のチオルテン、中部を因位のチオルテン、下部はチオルテンの基礎であるという。つまり、全体で一つのチオルテンとみなすのではなく、上中の各部分が一つのチオルテンとして機能していると考えている。しかし、果位 ('bras bu) と因位 (rgyu) の部分をそれぞれ一つのチオルテンとして考えられるのは間違いであるとする。理由としては、果位 ('bras bu) は塔刹 (チィコル chos 'khor) の部分を指している³¹⁾。つまり山本氏は、塔刹 (チィコル chos 'khor) の部分だけでも一つチオルテンになっているとしているのである。しかし、塔刹 (チィコル chos 'khor) の部分だけは一つチオルテンにならない。そのため、「果位の法塔」の法塔がいらないと考えている。同様、「因位の法塔 (rgyu'i mchod rten)」の法塔はいらないと考えている。つまり、各々のパーツごとにチオルテンとして機能しているのではなく、全体で一つのチオルテンとして機能していると考えべきである。

劉暢の「西藏佛塔研究」では以下のように述べている。

西藏佛塔從宏觀上來分析，可以分為通常由塔座，塔瓶（塔身）和塔刹三部分組成³²⁾

さらに『西藏地区的寺院与佛塔』では次のような記載がある。

西藏佛塔的結構壹般為塔座，塔瓶，塔刹三部分組成³³⁾

28) ジャツォ編『bod lugs mchod rten la nye bskor』四川美術出版社、2014年4月、20頁。

29) 山本幸子「チベットにおける法塔の類別」『佛教大学大学院紀要』第28号（2000年3月）、24頁。

30) Gega lama, principles of Tibetan art, darjeeling, w.b.india, 1983.

31) 前掲、山本幸子「チベットの技法書に見られる法塔（チオルテン）の類別」、72頁。

32) 劉暢「西藏佛塔研究」、南京工業大学修士論文、2012年12月、78頁。

33) 前掲、佛教小百科、全佛編輯部編、『西藏地区的寺院与佛塔』97頁。

筆者は菩提チオルテンを塔座 (ティテク khri stegs)、塔瓶 (ワムパ bum pa)、塔刹 (チィコル chos 'khor) の三つの部分で建造されていると考えている。それらの部分について次に検討する。この分類についてはコンチョク・テンツェン (dkon mchog bstn adzin) 氏は以下のように図示する。

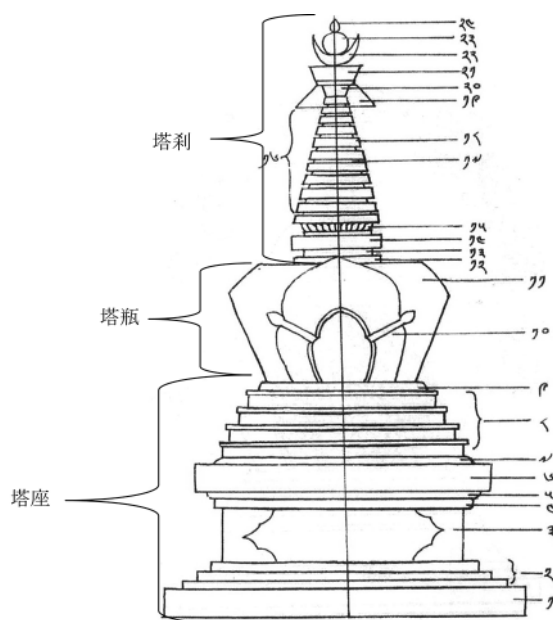


図3 菩提チオルテン³⁴⁾ (筆者が一部修正した)

1. 塔座

塔座はチベット語でマンテン (rmang rten)、ティテク (khri stegs) であり、中国で塔基、日本語で基壇、須弥座等の名称が存在しているが、ここでは、塔座を用いる。各構成については以下の図の通りである。

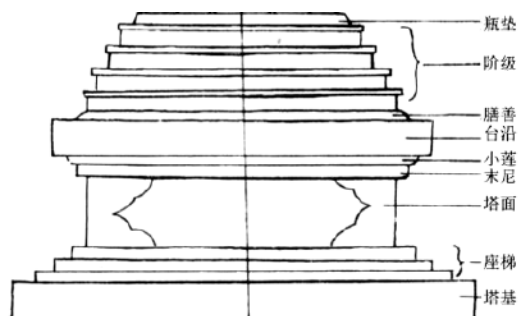


図4 菩提チオルテンの塔座

34) 前掲 コンチョク・テンツェンとティンレー・ギェルツェン『bod lugs mchod rten』 2007年5月、59頁。

塔座は現代チベット仏教におけるチオルテンの基礎であり、基座とも言い、チオルテンの非常に重要な部分である。高さはチオルテンの三分の一程度であると考えられている。塔座の各部分名称は以下の通りである。

表 3

中国語	日本語	チベット語
塔基, 地基	台座	サゼン (sa 'dzin)
座梯, 台階	はしご	テムゲ (them skes)
塔面, 塔壁	正面	ドンチェン (gdong chen)
塔托, 末尼	軒蛇腹	ゾンネ (gzung sne)
塔檐, 小蓮	小蓮華	ベチョン (bad chung)
台榭, 台沿	胸壁	ワガム (ba gam)
十善, 膳善	十善	ゲチェ (dge bcu)
階層, 階級	階段, 段階	ワンラム (bang rim)
瓶墊	壺座 (つぼざ)	ウンデン (bum gdan)

2. 塔瓶

塔瓶はチベット語ではワムテン (bum rten)、プムパ (bum pa) であり、日本語で塔身、塔瓶、中国語では塔門などがある。ここでは塔瓶とする。



図 5 塔瓶

塔瓶はチオルテンの主題構造であり、異なるチオルテンの塔瓶も違う。ただ、八大チオルテンの塔瓶は同様の形式しており、覆鉢の形である。

塔瓶の各部分の名称は次の通りである。

表 4

中国語	日本語	チベット語
塔門	宝庫の入り口	ゴチム (sgo khyim)
門飾	門飾	ゴティ (sgo spras)
塔瓶	壺	ウンパ (bum pa)

3. 塔刹

塔刹はチベット語ではチィコル（chos 'khor）という。中国語では塔刹、塔頂、日本語では相輪など名称があるが、ここでは塔刹を用いる。

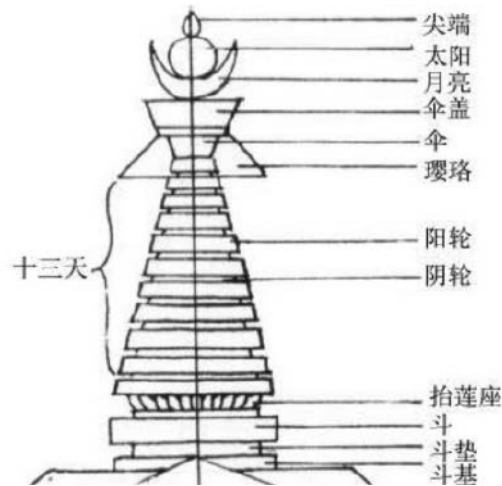


図6 塔刹

塔刹はチオルテンの頂端であり、相輪とも言う。古代インドのストゥーパも塔刹があるが、チベットに伝わって十三相輪が追加された。

塔刹の各部分の名称以下の通りである。

表5

中国語	日本語	チベット語
斗基，横斗	栴基	デマン (brer rmang)
斗墊，斗托	栴座	デテン (bre rten)
斗	栴	デ (bre)
拾蓮座，蓮座	傘を支える蓮華	ヅデクベマ (gdugs 'deg pad ma)
十三天，十三法輪	十三法輪	チィコル・チュサム (chos 'khor bcu gsum)
陰輪	雄輪	モコル (mo 'khor)
陽輪	雌輪	ポコル (pho 'khor)
瓔珞，塔幢	雨うけ	サルツァク (zar tshag)
傘，遮雨檐	傘	タクジェドゾク (thugs rje mdo gzugs)
傘蓋，滴雨檐	雨ふた	チャリケブ (char khebs)
月亮	月	ダワ (zal ba)
太陽	太陽	ニマ (nyi ma)
尖端，塔尖	頂上飾り	トク (tog)

ラモジ氏ラモジェ氏「蔵伝仏塔文化研究」において、デク (gdugs) とタクジェドゾク (thugs rje mdo gzungs) は一つの名称とされている³⁵⁾。山本氏の「チベットの技法書に見られる法塔 (チオルテン) の類別」においては、デク (gdugs) とタクジェドゾク (thugs rje mdo gzungs) 二つ名称で二つの部分を指している。³⁶⁾ 十七世紀チベットの有名な学者或いはチベットの「政教合一」に重要な人物であるデセサンジェジャツォ (sde srid sangs rgas rgay mtsho) の『mchod sdong 'dzam gling rgyan gcig gi dkar chags』においてもデク (gdugs) とタクジェドゾク (thugs rje mdo gzungs) 二つ名称の記載がある。³⁷⁾

以上より、チホルテンは塔座、塔瓶、塔刹の三部で建造されおり、各部分の名称を集めると、現代チベット仏教のチホルテン（八大チホルテンだけ指す）は二十五部分の名称で説明することができる。

表6 菩提チョルテンの各部の名称³⁸⁾

番号	チベット語	中国語	日本語
1	ཁ་འཛིན། サゼン	塔基，地基	台座
2	ཐེམ་གླག། テムゲ	座梯，台階	はしご
3	གདང་ཆེན། ドンチェン	塔面，塔壁	正面
4	གཐང་སྐློ། ゾンネ	塔托，末尼	軒蛇腹
5	དང་ཆུང་། ワンチョン	塔檐，小蓮	小蓮華
6	ངག་གཤམ། ワガム	台榭，台沿	胸壁
7	དཀོན་པ་ལྷ། ゲチェ	十善，膳善	十善
8	དང་རིམ། ワンラム	階層，階級	階段、段階
9	འཇམ་གདན། ウンデン	瓶墊	壺座（つぼざ）
10	རྩོུམ་གྱི། ゴチム	塔門	宝庫の入り口
11	འཇམ་པ། ウンパ	塔瓶	壺
12	ཐུང་རྩེ། デマン	斗基，横斗	枅基
13	ཐུང་ཐུང་། デテン	斗墊，斗托	枅座
14	ཐུང་། デ	斗	枅
15	གཐང་འཇམ་འདེགས་པ་ལྷ། བུ་ཐུང་པེ་མ།	抬蓮座，蓮座	傘を支える蓮華
16	ཆོས་འཁོར་བཟུ་གསལ། チィコル・チュサム	十三天，十三法輪	十三法輪
17	མོ་འཁོར། モコル	陰輪	雄輪
18	མོ་འཁོར། ポコル	陽輪	雌輪
19	རྩེ་ཆེན་གྱི། サリツァク	瓔珞，塔幢	雨うけ
20	གཐང་གཤམ། デク	傘，遮雨檐	傘
21	ཐུགས་རྩེ་མཛད་གཞི་ལྷ། テクジェ・ドゾン	慈悲真言	慈悲の真言

35) ラモジェ『蔵伝仏塔文化研究』中央民族大学、修士論文、2007年3月、29頁。

36) 前掲 山本幸子「チベットの技法書に見られる法塔（チョルテン）の類別」80頁

37) デセサンジェジャツォ (sde srid sangs rgas rgay mtsho) 『mchod sdong 'dzam gling rgyan gcig gi
dkar chags』 西藏人民出版社、1990年4月 314頁。

38) 『mchod sdong 'dzam gling rgyan gcig gi dkar chags』と「チベットの技法書に見られる法塔（チオルテン）の類別」に基づき、筆者が作成。

22	ཇམ་ལྷན་པ། チアリケブ	傘蓋、滴雨檐	覆蓋
23	ཟླ་ཁ། ダワ	月亮	月
24	ཉི་མ། ニマ	太陽	太陽
25	ཉྩ་ཁ། トク	尖端、塔尖	頂上飾り

四 菩提チオルテンの各部位の象徴（仏教視点からの分析）

仏教的視座から菩提チオルテンに対する解釈については、Giuseppe Tucci 氏の『梵天佛地』第一巻において以下のように述べられる。

第壹層階基象征四念處，第二層階基象征四正勤，第三層階基象征四神足，第四層階基象征五根，瓶座象征相應五力。³⁹⁾

第一層は塔座の台座（サゼン sa 'dzin）と梯子（テムゲ them skes）のことであり、四念處⁴⁰⁾を象徴している。第二層は塔座の正面（ドンチェン gdongchen）を指し、四正勤⁴¹⁾を象徴している。第三層は塔座の軒蛇腹（ゾンネ gzung sne）、小蓮華（ペチョン pad chung）、胸壁（ワガム ba gam）、十善（ゲチェ dge bcu）のことであり、四神足⁴²⁾を象徴している。第四層は塔座の階段（ワンラム bang ram）であり、五根⁴³⁾を象徴している。瓶座は塔座の壺座（ウンデン bum gdan）を指しており、五力⁴⁴⁾を象徴している。また、Giuseppe Tucci 氏は塔瓶について「塔瓶象征七覚支（bodhyanaga）」⁴⁵⁾と述べている。つまり、塔瓶は、壺（ウンバ bum pa）のことを指しており、七覚支⁴⁶⁾を象徴している。

39) Giuseppe Tucci『梵天佛地』第一巻、魏正中、薩爾吉主編、上海古籍出版社、23頁。

40) 四念處とは仏教における悟りのための4種の観想法の総称であり、「四念住」、「四念処観」の名称がある。身念處、受念處、心念處、法念處である。中村元（訳）、『ブッダ最後の旅』岩波書店、276頁。

41) 四正勤とは仏教における修行内容の1つであり、1. 断断（既に生じた悪を除くように勤める）2. 律儀断（まだ生じない悪を起こさないように勤める）、3. 随護断（まだ生じない善を起こすように勤める）、4. 修断（既に生じた善を大きくするように勤める）。中村元等編『岩波仏教辞典』岩波書店、2002年10月、第二版、520頁。

42) 四神足とは仏教における修行内容の1つ。瞑想において自在力・神通力を得るための4種の基礎であり、「四如意足」ともいう。欲神足、勤神足、心神足、観神足である。中村元（訳）、『ブッダ最後の旅』岩波書店、1995年7月、249-250頁。

43) 五根とは仏教の修行において根本的な5つの能力であり、信、精進、念、定、慧である。前掲 中村元訳『ブッダ最後の旅』250頁。

44) 五力とは仏教における修行内容の1つ。修行者を悟り、解脱に至らしめる5種の力であり、信（信仰）、精進（努力）、念（憶念）、定（禪定）、慧（知慧）である。前掲 中村元訳『ブッダ最後の旅』、250頁。

45) 前掲 Giuseppe Tucci、『梵天佛地』第一巻、24頁。

46) 七覚支とは仏教における修行内容の1つ。悟りの7つの支分をなす項目であり、「七等覚支」、「七菩提

菩提 Cholten の塔利 (チコル chos 'khor) 各部位の象徴については、また Giuseppe Tucci 氏は次のように述べる。

平頭象徴八正道，十三相輪象徴十力和三念住，傘蓋象徴智慧，傘蓋下面的兩條繩線象徴四業，傘蓋上の日月象徴二智，頂尖象徴無二。⁴⁷⁾

平頭とは塔利のことであり、八正道⁴⁸⁾を象徴している。十三相輪或いは十三宝輪、(チコル・チュサムチ chos 'khor bcu gsum) は十力⁴⁹⁾と三念住を象徴している。傘蓋或いは滴雨檐、雨ふたは (チャリケプ char khebs) のことであり、智慧⁵⁰⁾を象徴している。傘蓋下の二つ線は傘或いは遮雨檐 (タクジェドヅク (thugs rje mdo gzugs)、雨うけ (サルツァク zar tshag) のことであり、四業⁵¹⁾を象徴している。傘蓋上の日月は太陽 (ニマ nyi ma)、月 (ダワ zla ba) のことであり、二智⁵²⁾を象徴している。頂尖は尖端、塔尖或いは、頂上飾り (トク tog) のことであり、無二⁵³⁾を象徴している。

菩提 Cholten は台座から頂上飾りまで24の名称で建造されており、ラモジェ「伝仏塔文化研究」の中で以下のような説もある。

塔即是佛，佛即是塔，修塔如修佛，礼塔如礼佛，佛塔一体⁵⁴⁾

また、ラモジェ氏は、以下のように図示する。

分」ともいう。1. 念覺支、2. 正法覺支、3. 精進覺支、4. 喜覺支、5 輕安覺支、6. 定覺支、7. 捨覺支である。パユットー 著、野中耕一 訳『ポー・オー・パユットー 仏教辞典 (仏法篇)』、2012年2月、サンガ、159-160頁。

47) 前掲 Giuseppe Tucci『梵天佛地』第一卷、24頁。

48) 八正道とは仏教において涅槃に至るための8つの実践徳目である正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定のことであり。前掲 中村元等編『岩波仏教辞典』、828頁。

49) 十力とは仏と菩薩が人々を救うために使う10種の力のことであり、1. 處非處智力 2. 業異熟智力 3. 靜慮解脫等持等至智力 4. 根上下智力 5. 種種勝解智力 6. 種種界智力 7. 遍趣行智力 8. 宿住隨念智力 9. 死生智力 10. 漏盡智力である。前掲 中村元等編『岩波仏教辞典』、491頁。

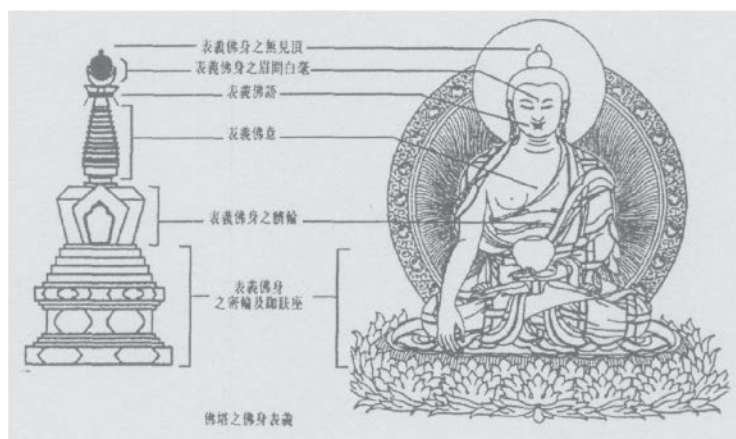
50) 智慧とは一切の現象や、現象の背後にある道理を見きわめる心作用を意味する仏教用語である。前掲 中村元等編『岩波仏教辞典』、696-697頁。

51) 四業とは慫業、増業、懷業、誅業。

52) 二智とは如理智、如量智である。チベット語では、「sgrib gnyis」ni nyon mongs ba'i sgrib pa dang shes bya'i sgrib pa gnyis yin 前掲ドンカル・ロザンチンリ (dung dkar blo bzang 'phrin las)『daung dkar tshig mdzod chen mo』2002年、739頁。

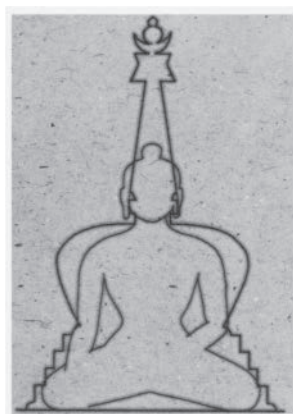
53)『佛說無二平等最上瑜伽大教王經』。(『大正新脩大藏經』)大藏出版株式会社、1925年2月)第18冊、經号0887、共6卷。

54) ラモジェ『藏伝仏塔文化研究』中央民族大学、『修士論文』2007年3月、21頁。

図7 仏塔は仏陀の全身を表す⁵⁵⁾

菩提チオルテンの塔座（ティテク khri stegs）、塔瓶（ワムパ bum pa）、塔刹（チイコル chos 'khor）は、それぞれ釈尊の身体の各部位を表われている。

また、劉暢「西藏佛塔研究」の中で以下のような図がある。

図8 チオルテンと仏像の比較（楊似仙繪）⁵⁶⁾

以上の図7と図8ではチオルテンは仏陀が結跏趺坐の姿をとっている様子を示し、菩提チオルテンの各部は仏陀の身体を代表されていると考えられている。つまり、チベット仏教におけるチオルテンは仏陀のことを表わしており、仏陀はチオルテンの象徴である。チオルテンを建

55) 前掲ラモジェ『藏伝仏塔文化研究』、21頁。

56) 劉暢『西藏佛塔研究』南京工業大学、『修士論文』、2012年12月、79頁。

立すれば、仏陀の仏像が建立したという同様の意味を持ち、チオルテンに対する礼拝は仏陀に対する礼拝と同じであると言える。つまりチオルテンは仏陀を表した存在と言えよう。

おわりに

本稿では、菩提チオルテンの名称から検討し、数多くの名称が存在しており、歴史学よりチベット仏教における菩提チオルテンの始まりを分析してきた。建築学の特徴から脇侍としての八大チオルテンに属している菩提チオルテンを中心として、菩提チオルテンの建造の特徴、各部分の名称とチベット仏教視点より各部分の象徴について、明らかにしたと考えている。ただ、チオルテンの形式より、各部分の名称と象徴は異なる。さらに、チベットにおいては、八大チオルテン以外にも数多くのチオルテンが（民間のチオルテン）存在しており、そして、別の起源と異なる特徴および名称が見られる。それらについては今後の課題としたい。